

# ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する



中区・石川町ストリートアートプロジェクト(天井画・ロコサトシ)(P.02)

2019  
Vol.

019

「特集 まちなかのプロデューサー」



栄区・さかえ e g a o フェスティバル (P. 03)



身近なあの人が  
まちなかの  
プロデューサー



石川町にそそぐ  
商店会の  
まなざし

中区・石川町駅から徒歩1分、閑静な住宅街に女性専用ゲストハウス「Yokohama Guesthouse HACO.」がオープンした。ドアを開けて真っ先に目に入るのは、ウォールペイントアーティスト・ロコサトシさんのカラフルな天井画。ドミトリールームは横浜の港から着想を経て、コンテナのような合板を使った内装に仕上げた。

このゲストハウスを企画、運営しているのは、ひらがな商店街ウエ

ストアベニュー会長であり、自身もカフェを営む石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会の飯田峰子さん。「石川町は中華街も近く、旅行者も多いのですが、宿泊施設が少ないんです。来街者と交流できる場所を作りたいとずっと思っていました」。

石川町ストリートアートプロジェクトは2017年に発足。まちを盛り上げたいという思いから、商店街でアートに触れることができるイベントを開催。ワークショップやライブペインティングなど『まちをPRするアート』のほか、今年度は『まちの問題に取り組むアート』として造形

ユニット・ドゥイによる、中村川のゴミを使ったモバイル作りも行った。こうしたイベントだけでなく、拠点づくりなど、多角的に石川町のイメージ作りを行うのが狙いだ。

「石川町ストリートアートプロジェクトは、若手個人経営者たちがまちのために何かをやりたいと思いはじまった試みです。私たちの活動を通していつか『このまちに住みたい!』、『このまちでお店を出したい』と思ってもらえたら嬉しいです」。

企画の端々から、石川町に対する飯田さんの温かな眼差しが垣間見える。アートを入り口に、まちの新たな魅力が見えてくる。

2

## 笑顔をテーマに 誰かと つながる場を

栄区公会堂をアートでデコレーションする『egaoフェスティバル』も今年で6回目。ワークショップや福祉事業所の製品販売ブース、ステージパフォーマンスなど、気軽に、アートに親しむフェスティバルだ。展示ブースでは、区民から募集した作品のほか、区内にある5つの福祉事業所や高齢者リハビリグループとアーティストが共同制作した作品が並び、このイベントが福祉施設のネットワークにより実現していることがわかる。



「今回は、イベントに至るまでのプロセスも発信するという意識でパンフレットを作成しました。そうしたら伝えたいことが多く、字が小さくなってしまっ」と笑うのは、イベントを取りまとめる大平由子さん。自身も福祉事業所を運営するNPO法人の理事長であり、イベントのほか、福祉事業所とアーティストがコラボレーションしての商品開発にも意欲的だ。手作りクッキーのパッケージや、製品のテキスタイルなどにアートの要素を掛け合わせることで、付加価値のあるものづくりを行っている。活動を通して、福祉施設同士の交流が増えたことも大きな成果の一つだ。「今は、アートを通してバリアフリーを実現することが目標」。

3

## お店の二階を アートの 拠点に

市内でも、老舗商店街として有名な神奈川区・六角橋商店街。営業時間終了後の時間帯を活かした『ドッキリヤミ市場』や『商店街プロレス』などイベントが盛んなことでも知られるこのまちで、アートな拠点の一つとなっているのが、六角橋仲見世通りにある二階劇場だ。作家によるオリジナルグッズや雑貨などを扱う雑貨店Moon Catの二階部分を利用したスペースで、ライブや落語、展示など地元アーティストの発表の場となっている。

「昔から商店街自体に、みんなを盛り上げていこうという意識があるんですね。雑貨店やギャラリー同士のネットワークもあって、自然と人が集まってくる流れが生まれてきました」と語るのは店主の岩本久美子さん。もともとは一階で猫グッズを中心に扱うギャラリーショップを運営していたが、そのうちに、空きスペースとなっている二階部分も活用できないかと考えたのがきっかけ。

2010年のオープン以来、文化の発信基地としてスペースを育てながら、まちの様子を眺めてきた。スーパーマーケットが建ち、一時期に比べて人通りも減ってきたが、それでもアートイベントや作家グッズを求めて岩本さんを訪ねる人は多い。



第5回チャレンジド・コンサートの様子(中区)

4

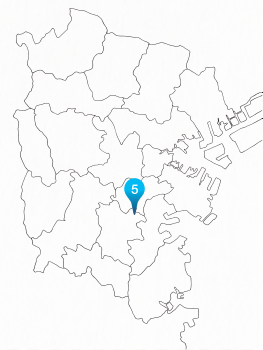
## 養護学校の先生が支える パフォーマンスグループ 「はっばオールスターズ」

はっばオールスターズは2008年に瀬谷養護学校大和東分教室の生徒を中心に結成されたパフォーマンスグループ。「どこにでもいく、なんでもやる」をモットーに、横浜市内外で行われるさまざまなイベントで活躍。グループを運営するのは、教員の星野英俊さん。「内向的で自分に自信のない生徒を見て、人前に立って表現をしてみたらどうかと思ったんです。」職務の合間に曲作りから練習と奔走した。メンバーにとっても、グループ活動で得た自信は日々の仕事の活力につながっている。

歌は大和の境川や相鉄線をテーマにしたオリジナルソング。「ローカルなものにこだわっています。今後もクリエイティブなことをやりたいです。もう少し時間に余裕ができれば、劇団を作るなんていいかも」。裏方に徹する星野さんも、はっばオールスターズの活動を通じ表現するアーティストだ。

P.3左  
さかえegaoプロジェクト  
<http://ega-oproject.com/contents/top.html>  
P.3中  
ムーンキャット 二階劇場  
横浜市神奈川区六角橋1-10-12  
P.3右  
はっばオールスターズ  
<https://happatai.jimdo.com/>

## 子どものアトリエから 考えたこと



### 30年の軌跡から見る 子どもの創造体験

地域のアート活動で主役になる子どもたち。みなとみらいの横浜美術館は、1989年の開館当初から、子どもたちを対象とした創造の場「子どものアトリエ」で、多彩なワークショップを展開しています。1月25日（金）に行われたアートサイトラウンジでは、その立ち上げに関わった横浜市民ギャラリー主席エデュケーターの三ツ山一志さんにお話を伺いました。聞き手は金沢文庫芸術祭の実行委員長で、自身も「子どもデザイン教室」を運営する浅葉弾さんです。

子どものアトリエの対象は未就学児から小学6年生までの幼児・児童。三ツ山さんは、子どもたちと出会うなかで、子どもたちは環境に影響されながら育つと実感したそうです。「そこには保育園や幼稚園、学校、そして大人である自分も含まれます」と話します。「何かを教えるときは、子どもに『誰がやるの?』と聞くようにしています。色を選ぶのも、塗るのも『誰がやるの?』。これは『あなたの人生は誰のものですか?』という問いと繋がると思っています」。

お話を聞いた浅葉さんは「子どものアトリエは、僕も今すぐ参加したいと思うくらい魅力的。子どもたちにとって新しい経験ができる場所なんです。教える人も環境の一部ということ、今後とも意識していきたい」と話しました。

会の後半では、観客から子どもとの関わり方についてなどの質問が上がり、お二人がコメントしあう場面もありました。

アートサイトラウンジでは、今後さまざまな切り口からまちとアートについて考えます。次回の予定はぜひウェブサイトをご覧ください。



【会場】港南区民文化センター・ひまわりの郷 音楽ルーム(港南区上大岡西)

【ゲスト】三ツ山一志(横浜市民ギャラリー 主席エデュケーター) 【聞き手】浅葉 弾(金沢文庫芸術祭 実行委員長)

【聞き手・進行】小川智紀(ヨコハマアートサイト事務局/STスポット横浜) 【主催】ヨコハマアートサイト事務局

6 居留地の歴史を持つ港町が  
育んできたヨコハマ・スピリット

大房奈央子さん  
(大佛次郎記念館)

中区は、山下公園や元町・中華街などに代表される観光地のイメージで語られることが多いですが、そのほかにも工業地域・オフィス街・住宅地など、実際は地域の特性ごとに全く違う雰囲気を持っていきます。港町としての歴史が、多様な文化を育んできたのでしょう。当館のある山手地区は、西洋館が並び、インターナショナルスクールも含まれた文化交流がある国際色豊かな地域です。ゆったりとした空気、丘をあがってくるたび、独特な時間の流れを感じます。鉄道の駅から離れていることも関係しているのかもしれませんが。

主な公共交通手段はバスで、神奈川中央交通バス11系統は、ここから保土ヶ谷まで伸びています。ですよ。ちょっとした旅気分も味わえるのでお勧めです。バス移動を重ねているうち、かつて市電の経路であった道が見分けられるようになってきました。切通しになっていく広い道を見ると、あっ、これはきっと市電道（しでんみち）だなと。



山手資料館

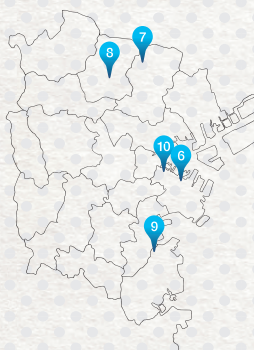
港の見える丘公園周辺は観光地と住宅地という二つの側面を持っています。地元の方にとって「山手の住民」だということは一つの誇りとなっているようですね。マンションも増えていますが、新住民の方も共に土地の文化を守っている印象があります。地域猫を見守る当番があったり、買い物に不便なところでは味噌や醤油の貸し借りが生まれていたりという話も聞きますね。また、生活の場に文化施設があるため、アートが身近だというのも特色かもしれません。10月には、旧居留地ならではの外国文化も取り入れた本格的なハロウィンイベントも開催されています。

横浜生まれの文豪である大佛次郎は「自由で芯があり、反骨精神を備えている」と横浜らしさを捉えていたようです。富山県からこの地区に移ってきた私も、そんなヨコハマ・スピリットを感じる事が度々あります。人が入れ替わっても文化は受け継がれている。土地がヨコハマを作っているのだなと感じます。

居留地時代の町名や地番がいまも残っているというのも理由の一つかもしれません。私が今住んでいる家は、古い地図で調べたら、かつてレストランだったようです。美味しいオニオンスープをつくるシェフがいたようだという事まで分かりました。市内に残る唯一の木造西洋館である山手資料館や、テニス発祥の地など歴史なものも残っていることも、文化に対する意識を高めているように感じます。地層のように人の歴史が積み重なっていると実感できると、より土地に対する愛着がわいてきますよね。

## 事務局うろうろ日記

ヨコハマアートサイト事務局は、  
今日も、横浜市内の  
あっちこっちへうろうろしています。



7 10月8日(月・祝)

港北区・新吉田にて横浜市無形民俗文化財保護団体・円応寺の「柴燈護摩火生三昧火渡り修行」に参加。裸足で火のうえを渡るらしい。修行に参加する列からは、境内の様子が分からないため、門の向こうでもくもく上がる煙と歓声にドキドキしつつ順番を待つ。緊張したものの修行は一瞬で終了。参加の際は、足を拭くタオルをお忘れなく。



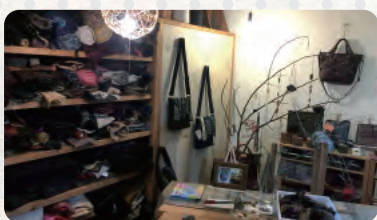
8 10月21日(日)

都筑区・JA横浜きた総合センター隣接農地で行われる「福祉農園」というイベントへ。この日は社会福祉法人・かたるべ会と音楽家、俳優といったアーティストがコラボした、かたるべハッピーザがライブ出演。秋晴れのもと、楽しい歌声と演奏が響く。オリジナルのCMソングに出てくる「おからピザ」も、もちもちでとってもおいしい！



9 10月30日(火)

金沢区内のカフェやギャラリーなどで行われるアートイベントをつなぐ金沢文庫芸術祭アートルアリー。アサバアートスクエアでドリームキャッチャー作りをしたのち、織作家・タナカエナさんによるenaアトリエ展へ。織機やミシン、さまざまな素材が並ぶ工房内での展示と販売。親しみやすく、生活に溶け込むような作品との出会いだっただ。



10 12月1日(土)

NPO法人S.A.I.が企画する「『部屋を育てる』アートプロジェクト2018カラダで眺めるヨコハマ・関内」に参加。ダンサー・振付家でBaobabの北尾亘さんの指導のもと、ストレッチをして関内をフィールドワーク。そこで得たものを素材にコンテンポラリーダンスを制作し、関内伸光ビル301号室で発表した。五感を使ってまちを歩く新鮮な体験。



撮影:もてスリム

## ヨコハマ アートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

## 事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局  
(STスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団)  
〒220-0004 横浜市西区北幸  
1-11-15 横浜STビル 208  
(認定NPO法人STスポット横浜  
地域連携事業部 内)  
TEL:045-325-0410  
FAX:045-325-0414  
WEB: <https://y-artsite.org>  
MAIL: [office@y-artsite.org](mailto:office@y-artsite.org)



@Y\_Artsite



ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

## 季刊ヨコハマアートサイト Vol.019

発行 ヨコハマアートサイト事務局  
編集 認定NPO法人  
STスポット横浜  
テキスト 小川智紀 池田友実  
加納美海  
デザイン 相澤事務所株式会社  
撮影 福井裕子  
印刷・製本 株式会社 三島印刷  
発行日 2019年03月29日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしております。

# YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト おでかけMAP

## 横浜の地域文化を支援するための 「ヨコハマアートサイト」助成金

横浜市地域文化サポート事業  
「ヨコハマアートサイト」は、毎年、横浜市内での  
文化芸術活動を公募し、助成を行っています。



ヨコハマアートサイト  
2019募集期間

2019年3月1日(金)～4月3日(水)

詳細は募集要項およびウェブサイトをご覧ください。  
なお、横浜市の平成31年度予算が横浜市の会において  
議決されることを条件としています。



本誌で取り上げた場所



あうたびに、あたらしい  
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら <https://y-artsite.org/>

ヨコハマアートサイト